

(5) 二地域居住

田舎暮らしというものが始まったころは、定住が田舎暮らしであるというような感じで、例えて言うなら、清水の舞台から飛び降りないと田舎暮らしではないというような思いがあった。ところが、田舎暮らしが今のように大衆化してくると、そのようなことだけではなく、もう少し軽い田舎暮らしがあってもよいのではないかと考えられている。東京を中心に考えると、例えば、新幹線で1時間程度で、那須や、軽井沢や、八ヶ岳の方にも行けるので、週末だけのような田舎に住んで、行ったり来たりするというような暮らし方がその一つである。

このような二地域居住は場合によっては交通費などでお金はかかるが、現役であれば田舎暮らしに入りやすいやり方で、そこから、定年後に地方に定住することもできるし、二地域居住をずっと続けることもできる。このハードルの低さが田舎暮らしを進めるのではないかと、あるいは都市と農村の交流につながるのではないかと、国土交通省などは推奨している。

田舎体験のような1日だけの田舎暮らしも田舎暮らしと呼べば、田舎暮らしのスタイルは1日だけの田舎暮らしから定住までたくさんあって、そのように変化しつつあるということが言える。

(6) 田舎暮らしの目的

何のために田舎暮らしをするのかということについては、既に触れたように家族の安全や健康のためという人や、趣味が高じてということで、山が好きな人は山のそばに、釣りが好きな人は海か川のそばにというように暮らす人がいる。また、音楽などが好きな人がボリュームを上げて楽しみたいとか、すごくよい音響の中でやりたいというように、自分の趣味を十分に活かすために田舎暮らしを考える人もいる。その他には、自分の仕事を極めるということで、田舎に適した仕事であれば田舎に移ってやっている人がかなりいると考えられ、目的は本当に様々である。

(7) 人気がある地域

田舎暮らしをするにはどこが人気があるのかということに

ついて、一般のサラリーマンを対象に調査をすると、沖縄が1位になることが多い。だから、今は沖縄が一番人気があるのかと思うかもしれないが、「田舎暮らしの本」の読者の間では1位はずっと長野である。長野が人気であるのは、関東圏、関西圏から非常によい位置にあるということ、また、林間学校などの機会に遊んだり勉強したりということを子供時代に経験している場所であること、そして、文化や歴史の集積があること、それから、日本アルプスに象徴されるように日本で有数の自然があることなど、多くの有利な条件があるためだと思う。

もちろん沖縄も上位に入っていて、人気があることは確かである。四国は、関西からは別にして、特に関東からはなじみが少なく、来にくい場所であるような気がする。これは今後の展開次第で分からないが、なかなか人気エリアには入ってこないという課題があると思われる。

(8) 移住者が入ることによる効果

移住者が実際に地域に入ってくるとどのようなことが起こるのかということであるが、プラス面は、当然のことながら住民票が移れば住民税や固定資産税などの税収が地域に入る。それから、その人の兄弟、親族、知人が入ってくることによって人の交流が起こる。そしてまた、その人たちが都市とのパイプを持っているので、地域と都市とのパイプ役になってくれるというようなことがある。

さらに、専門知識やノウハウを持つ人が入ってきて、それを活かせる何らかのモノがあれば地域にとって非常にメリットがある。それは特別な専門技術や科学的な知識が必要だというわけではなく、営業経験だけでも相当な戦力になる。世界を相手に仕事をしてきたビジネスマンがリタイアして地域に入ってきて、その広い視野で何か仕掛けることによって動く可能性があり、実際に変わってきた地域もある。

例えば、鳥根県江津市の桜江町では、のんびりしようと思って移住してきた夫婦がひょっとした機会に桑茶を販売するプロジェクトに巻き込まれて、自分でものめりこんで、今では売上高何億円かの事業規模に成長させて、